

令和6年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

特12

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	全教職員の共通理解の下、組織力を発揮し、創意工夫に満ちた学校創りを行う。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
<p>○成果 入学者の定員割れという課題を全職員で共有し、学校・寄宿舎生活の充実、広報活動等に努め、解消することができた。また、生徒の実態に応じた指導と日々の教育活動に取り組み、卒業生全員が希望の進路を実現できた。併せて、職業専門コースの見直しについて、ロードマップ等を整理することができた。</p> <p>○課題 これからの時代に求められる教育の実現に向けた教育課程や教育活動等の見直し、持続可能な組織作りが必要である。特に生徒の良さや可能性を見出し発揮できる日常の授業・環境を作るために、各種計画を授業や指導に活用するサイクルの明確化、ICT機器の効果的な活用に取り組まなければならない。併せて、教育課程実践交流会、職業専門コース再編に向けた準備を計画的に進める必要がある。</p>	A 学習指導と進路指導の充実	a 生徒の希望や実態に応じた効果的な就業体験、職場実習を行う。		
		b 職業・社会生結びつく具体的・実践的な学習指導の充実を図る。		
		c タブレット端末等のICT機器を活用した学習指導の充実を図る。		
		d 生徒が自分らしい生き方を見つけられるキャリア教育を展開する。		
	B 心と体の教育の充実	e 社会的スキルやコミュニケーション能力等を育てる自立活動の指導の充実を図る。		
		a いじめや不登校等を未然に防ぐ積極的生徒指導に基づく学級経営・学年経営を行う。		
		b 一人一人の障がいの特性や教育的ニーズに応じた指導方法の検討と対応、合理的配慮の提供を行う。		
		c 自立した職業生活、社会生活に必要な情報セキュリティ・モラル、健康・安全、食・性に関する指導を積極的に推進する。		
	C 寄宿舎教育の充実	d 心身の健康の保持増進と安心・安全な学校生活のための体制づくりを推進する。		
		a 基本的生活習慣の確立と健康で安全な生活の実現に向けて工夫する力の育成を図る。		
		b 寄宿舎生活を充実させるてんばい会を中心とした自治活動や余暇、行事の活性化を図る。		
		c 一人一人の障がいの特性や心情等に応じたきめ細かな支援と柔軟な対応を推進する。		
d 良好な人間関係を築く日常の豊かなコミュニケーションを推進する。				
D 組織の活性化と専門性の向上	e 安心・安全を守る環境と体制の整備を行う。			
	a カリキュラムマネジメントによる授業及び学習指導計画等の改善を推進する。			
	b 各種会議・委員会の計画的な実施とPDCAによる業務改善、後年度につなぐ記録・実績の集積を図る。			
	c 学年・分掌・全職員のチームワークと職員室・寄宿舎・事務室の校内連携、保護者・地域・関係機関・専門家等との校外連携を強化する。			
	d 学校見学やホームページ、SNS等を活用した積極的な広報活動を展開する。			
e 学校教育研究、授業研究を活用した授業改善と専門性向上に係る各種研修の実施を推進する。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
第1学年	生活管理能力を育成する。(B-c)(C-a)	基本的生活習慣を身に付けるために、家庭や寄宿舎と連携して個別の支援・指導を行う。		
	対人関係力、規範意識を育む。(A-c)(C-d)	社会人の一員として他者と協働する態度を養うために、学校行事や学年・学級活動等とおしてそれぞれ役割を果たす場面を設定し、その支援を行う。 社会人としてのルールやマナーを守る力を身に付けるために、学校生活全体を通して指導を行う。		
	自尊感情を育む。(A-b)(B-b)	自尊感情を育むために、学校活動全体において称賛する場面を増やす。		
	将来の職業生活に対する意識を高める。(A-a)(A-b)(A-d)	将来の職業生活の意識を高めるために、生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような就業体験、職場見学を計画・実施する。		
第2学年	基本的生活習慣及び身だしなみを定着させる。(A-b)(B-c、d)	家庭や寄宿舎と連携して個の実態に応じた支援・指導を行う。		
	集団の一員として規範意識を持ち、他者と協調して役割を果たそうとする態度を養う。(A-b、e)	スケジュール管理の支援・指導を行う。 教育活動全体を通して挨拶・返事の指導を行う。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

	自尊感情及び他尊感情を育む。 (A-d, e) (B-a, b) (D-d)	学級活動において称賛する場面を増やす。社会人としてのルールやマナーに関する指導を日常的に行う。また、学校見学で職業コース紹介などの役割の機械を設定する。						
	将来の職業生活についての知識及び意識を高める。(A-a, b, c)	生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような就業体験、職場見学等の行事や進路学習を計画・実施する。						
第3学年	継続力や持続力に重点を置いた、生活管理能力を育成および定着を図る。(C-a)	自分でできたという手応えを感じることができるよう家庭や寄宿舎と連携して、チャレンジできる環境を作る。						
	社会的スキルやコミュニケーション能力の向上を図り、自己有用感の向上や対人関係力及び規範意識の育成を図る。周りの人のことを考えて自分のすべきこと、してはいけないことを判断し、行動する実践力を育成する。(B-ac)	学校行事や学年、ホームルーム活動等を通して、一人一人に役割を持たせたり、他者と協働したりする機会を設定する。						
		集団の一員という自覚をもたせるために挨拶・返事の指導を徹底する。また、特別の教科道徳に限らず規範意識を考えさせる授業を設ける。						
職業・社会生活への適応性を養うため、将来の生活について意識を高める。(A-acd)	将来の職業・社会生活の意識を高めるために、生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような具体的かつ実践的な進路学習の機会を増やす。							
教務部	職業・社会生活に結びつく具体的・実践的な学習指導を行えるよう、学習環境の整備、教育課程の整理・見直しを中心としたカリキュラム・マネジメントを推進する。(A-b) (B-c) (D-a)	教育課程実践交流会実行委員会及び研修部と連携し、本校生徒の実態を踏まえ着実に力を身に付けられるような教育課程全体の整理・見直しに努める。 校内編成準備委員会と連携し、職業専門コース再編が着実に生徒の力を育む内容となるよう検討を行う。						
	本校の特色や魅力を周知させる取組を組織的・戦略的に実施し、入学者選考志願者の確保に努める。(D-d)	中学生進路相談事業への参加、各教育事務所で開催される特別支援教育関連の研修会での広報、中学校等へ直接出向いての広報活動を実施する。						
		関心のある中学生及び保護者が学校見学に来やすいよう、学校見学を年間行事に位置付け、受け入れ人数を増やして実施する。						
生徒指導部	いじめを見逃さない学校づくりを行う。(B-a)	生徒の日頃の行動を観察して状況把握に努め、必要な情報については全職員で情報を共有し生徒指導に活かす。 学年や特別教育支援部と連携して、生徒の実態や特性の理解に努める。						
		いじめアンケート終了後、気になる生徒と個別面談や「相談週間」を設定し、早期発見・早期対応を心掛け情報を共有して指導と対応を進める。						
	学年、寄宿舎及び保護者との連携の強化を図る。(B-a, B-b, B-d)	学年、寄宿舎の指導方針の共通認識・相互理解を深めるとともに、相互の環境で起こった問題行動を共有し、生徒指導にあたる。 学級担任・寄宿舎部屋担任との密な情報交換ができるように関係者・分掌に働きかける。内容に応じては特別支援教育部にケース会議等を依頼し、学年全体または全職員への情報の説明(提示)を行う。						
進路指導部	生徒の希望職種、実態を踏まえた職場実習、就業体験の受け入れ先の確保に努める。(A-a)	3年職場実習は生徒・保護者のニーズを把握し、そのニーズに応じた職場開拓に行い、職場実習、就労へ繋げる。 2年・1年の就業体験は、保護者・生徒自身に就労に対する意識の向上が図れるように、興味・関心のある職種等を考えさせるとともに、自分の適性に合った事業所を意識させ、就業体験に繋げる。						
		A型事業所等の福祉就労に関する情報を整理し、職員への情報発信を行う。 保護者に対して、進路だよりを発行し、進路に関する情報発信に努める。						
	進路に関する情報発信を行う。また、福祉サービスのA型事業所、B型事業所、就労移行に対するニーズの高まりに対応する。(D-c) (A-a)							
保健指導部	生徒の健康管理意識を高めさせる (B-c)	生徒自身が心や体の不調を具体的に伝えることができるように、健康観察での毎日の指導を行う。 衣服の調整、手洗い・うがい、水分の補給等の指導を定期的に行う。また、保健委員会を中心に手洗いや教室の換気等の呼びかけを行う。						
		研修会等を利用して、食物アレルギー等で食事に配慮が必要な生徒の実態を全職員で把握し、対処する。 栄養教諭と連携して、栄養管理に関する学習を取り入れる。						
	安全な食を提供し、望ましい食習慣を定着させる(B-c)							

	環境美化に努める生徒を育成する (B-d)	環境美化委員を通じて、掃除に取り組む態度等を放送で呼び掛ける。 効果的な大掃除等の企画や検討を行う。					
	生徒の実態に合わせて、性に関する指導を充実させる(B-c)	生徒の実態や社会の状況等の情報を収集し、指導内容の精選・検討等を行う。 学習効果を高めるために他教科と連携を図り、教科横断的指導を行う。					
特別支援教育部	職員の専門性の向上を図る。(D-e)	校内の関係分掌、外部の専門家や機関との連携を密にとり、障がいの理解と対応、福祉サービス等についての研修を計画し、実施する。					
	一貫したきめ細かな支援を行えるよう、必要に応じて校内、校外の関係者と連携に努める。(D-c)	生活や学習での困り感が強い生徒については、早めに担当職員から係へ相談できる環境を整え、分掌会議等を通してケース会議や関係機関との連携へとつなげ、適切な支援方法を探っていく。また、学期に1度、支援会議を行うことで学校全体での支援体制を検討する。					
	センター的機能の充実を図る。(D-c)	生徒の支援に関する相談が増えるように、地域のセンター的機能に関する広報を行う。					
研修部	職業的自立及び社会参加を実現しようとする生徒を育成するために、各教科等における系統的かつ教科間の連携のある指導の充実を図るための研究を推進する。(D-d)	各教科において、年間指導計画に記された指導内容の系統性を明確にするための協議を行う。 特別支援教育、特に知的障がい・発達障がいに関する専門性を高めるため、各分掌と連携を図り、効果的な研修を計画・実施する。					
	研修や実習等を通して、高い専門性を有する教員の育成を図る。(D-c、d)	若年教員研修(1年目、2年目、3年目)において、教科主任等と連携を図り、有益な研究授業が実施できるよう調整する。 大学との連絡調整や校内での指導体制作り等の在り方を検討し、教育実習や介護等体験を円滑に実施する。					
庶務広報部	PTA役員理事と連携しPTA活動内容の推進を行う。	定期的、計画的にPTA理事会を開催し、取り組みの確認や意見交流を行う。 PTA役員理事を中心として、研修の内容を検討し、2、3回の研修会を実施する。 PTAとして、花壇づくりまたはベルマーク活動の取り組みを行う。 加盟している様々なPTA団体の総会、研修会などへ積極的に参加できるようPTA役員理事と連携する。					
	ホームページをAWSに移行し、操作方法を習得し、その内容を充実させる。	学校ホームページの情報を最新にし、積極的な情報発信を行う。 本校の教育活動を紹介するため、学校要覧や学校パンフレットの発行を行う。					
寮務部	学校、家庭、関係機関等と連携しながら、将来の社会生活の基本となる生活習慣を確立させる。(C-a)	「生活自立の記録」新様式の次年度運用に向けて、実態調査・目標設定の方法や項目内容を協議し、試行する。					
	安全管理を確実にするための体制づくりを行ったうえで、安全な生活の実現に向けて工夫する力を育てる。(C-a)	日常の与薬やアレルギー対応等に関して、ダブルチェックを取り入れたシステムを用い、全職員でシミュレーションをして確認したうえで確実にを行う。 アレルギーに関して重篤な症状が懸念されるため、緊急対応シミュレーションにより全職員が確実に対応できるようにするとともに、行事や校外活動の際には、事前に保護者や飲食店等と連携してアレルギー食の対応を確実にを行う。 生徒同士の過度な接触によるトラブル防止に向けて、舎内のルール、善悪の判断について、生徒たちに理解できるように伝え、問題行動に対しては全職員で一貫した対応を行う。					
	自治活動を中心として余暇時間や行事を充実させ、生徒の自主性を育てる。(C-b)	生徒を中心に、全員が楽しめる寄宿舎行事を企画し実施する。 意見箱等を利用して生徒からの意見や要望等を集め、生徒を中心とした話し合いにより、寄宿舎生活の改善につなげる。					
	職員の資質を高め、一人一人が生徒の実態やニーズを把握して、個に応じた支援を行う。(C-c、C-d)	学年、特別支援教育部、保健部、生徒指導部との連携の下、コンサルテーション等で得られる情報を共有し、適切な指導・支援に生かす。 本人、保護者の気持ちに寄り添い、特性に応じ、人権に配慮した指導・支援について寄宿舎内で検討する。					
	寄宿舎の魅力の再発見及び創出を行い、発信する。(D-d)	各班にインスタグラムの係を設け、活動や行事の様子を効率的に発信する。 生徒の意見を取り入れながら、学校見学の寄宿舎紹介動画を作成する。					

自己評価及び学校関係者評価委員会評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・
--

評価項目以外のものに関する意見

--